

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
A genome-wide association study of alcohol dependence アルコール依存症の全ゲノム関連解析	
執筆者	
BIERUT Laura J., AGRAWAL Arpana, BUCHOLZ Kathleen K., FISHER Sherri, FOX Louis, HOWELLS William, BERTELSEN Sarah, HINRICHS Anthony L., CULVERHOUSE Robert C., GRUCZA Richard A., KRUEGER Robert F., LYNSKEY Michael, NEUMAN Rosalind J., SACCONI Nancy L., SACCONI Scott F., WANG Jen C., GOATE Alison M., RICE John P., <i>et al.</i>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<i>Proc Natl Acad Sci USA</i> , Vol.107 No.11 Page.5082-5087 (2010.03.16)	
キーワード	
アルコール依存症、全ゲノム関連解析、SNP、GABA 受容体 $\alpha 2$ サブユニット	
要 旨	
<p>米国において、過剰なアルコール摂取は回避可能な死の主要因の 1 つである。アルコールの摂取する人の約 14%が生存期間中にアルコール耐性、深刻な生理学的及び心理学的問題があるにも関わらず飲酒がやめられないなどのアルコール依存症の基準を満たす。筆者らは、1897名のアルコール依存症のヨーロッパ系及びアフリカ系アメリカ人とアルコールに暴露されているが依存症でない1932名の対照でアルコール依存症の遺伝的影響について検討した。イルミナ 1M beadchip を用いてそれぞれの constitutional DNA の遺伝子型を調べた。15 の SNP を $p < 10^{-5}$ で得たが、2 回目の独立した繰り返しにおいて SNP を $p < 0.05$ で得ることができなかった。次に GABA 受容体 $\alpha 2$ サブユニットをコードする <i>GABRA2</i> 遺伝子について評価し、5 つの SNP を $p < 0.05$ で得て、オッズ比は 1.11 と 1.16 の間であった。アルコール依存症と関連のある遺伝的変異の同定において、アルコール依存症の表現型のさらなる詳細な分析が次の段階として必要である。</p>	